

自然や歴史など「地域の魅力」も土台としたユニークな授業



高祖山(たかすやま)など糸島市を代表する山々と、のびやかな田園に囲まれた怡土小学校。児童数は約350人、創立140年を超え、祖父母の代から3世代にわたって通う子どももいるほど地域に根差しており、校区内でも「地域でしっかり子どもを守り、育てる」意識が浸透しています。地域の「安全見守り隊」が毎日の登下校を見守ってくれたり、一方で子どもたちは地域の花植えを手伝ったりと、相互で助け合っています。

学校では、グローバル社会を見据えたコミュニケーション重視の外国語の授業のほか、地域の自然や歴史的な文化財を活かしたユニークな授業を行っています。5年生が行う「森林体験」はその1つ。林業研究クラブのメンバーなどを先生として、森林の働きや糸島の自然について学びます。授業

では間伐の体験があります。林業研究クラブの先生がチェーンソーを木の幹に食い込ませ、ある程度切り込みを入れたところで、木に巻きつけたロープを子どもたちが引っ張ります。大きな音とともに倒れる木。迫力ある様子に子どもたちの眼差しも真剣そのものです。

3年生の総合的な学習の授業では、福岡県無形民俗文化財の指定も受けている高祖神楽について学びます。神社を見学したり、高祖神楽保存会の人から話を聞いたりする中で、身近な神事の高祖神楽への理解をより深めていきます。

怡土小学校の子どもは授業や地域との取り組みを通じて、人、自然、文化財といった地域の魅力を知り、継承していくための思いを大切に育てています。



地域の人に見守られながら、元気に登校



「森林体験」では林業で使うはしごに登り、高さを体感